

## 研究主題「自己の体験を基に、

## 自己の生き方についての考えを深める指導方法の工夫

### －問題解決的な学習に着目して－

東京都教職員研修センター研修部教育開発課

江東区立豊洲小学校 主任教諭 東 幸恵

### 第1 研究のねらい

「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編(平成29年6月)」には、「これからの社会を担う児童は、多様な価値観の存在を認識しつつ、自ら感じ、考え、他者と対話し、協働しながらよりよい方向を目指す資質・能力を備えることが重要である」と示されている。道徳科において、児童が多様な価値観の存在を認識するためには、自己の体験やそれに伴う感じ方や考え方を基に自分なりの考えをもち、他者と話し合いを通して道徳的価値のよさや難しさを確かめるような学習が必要である。体験は、児童によって質や量が異なるため、教師が児童の実態を把握し、実態に合わせた指導をする必要がある。

そこで、本研究では、児童の体験を生かした指導を行うために、道徳科の多様な指導方法の中から、問題解決的な学習に着目した。問題解決的な学習を通し、児童一人一人が道徳的価値のよさを理解し、自分との関わりで道徳的価値を捉え、道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われるようにしたいと考え、主題及び副主題を設定した。

### 第2 研究仮説

自己の体験に基づいて、道徳的価値について考えさせる授業を展開すれば、児童は自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深めることができるであろう。

### 第3 研究の内容と方法

#### 1 基礎研究

##### (1) 「自己の体験」に着目した理由

体験とは、本人が実際に行動して感得したり、体得したりするものである。本研究では、児童が道徳的価値の理解を基に自己を見つめるために、児童一人一人の感じ方や考え方を生かした授業展開が重要であると考え、児童の体験に着目して指導過程の工夫を考えた。

##### (2) 「自己の生き方についての考えを深める」児童を育てるための指導について

児童が道徳的価値の理解に基づき、自己の生き方についての考えを深めるためには、児童が道徳的価値を自分自身の問題として受け止め、自己の体験に基づいて、これからの生き方の課題を考えたり、それを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深めたりできるように指導することが重要であると分かった。

##### (3) 道徳科における「問題解決的な学習」

道徳科における問題解決的な学習とは、ねらいとする道徳的価値について自己を見つめ、これからの生き方に生かしていくことを見通しながら、実現するための問題を見付け、どうしてそのような問題が生まれるのかを調べたり、他者の感じ方や考え方を確かめたりと物事を多面的・多角的に考えながら課題解決に向けて話し合うことである。そこで、①道徳的価値について自分自身はどうであったかを振り返る、②問題を見付ける、③他者の感じ方や考え方を確かめる、④他者と多面的・多角的に考え、話し合う、の4点について、児童が取り組めるように

指導方法を工夫することが大切であると考えた。

## 2 調査研究

### (1) 調査の目的

「児童に自己の生き方についての考えを深めさせるために、学習過程のどこに意識をさせて取り組ませるかを把握する」ことを目的として、「道徳の時間の学習等に関する意識調査」を質問紙法により行った。時期及び対象は、平成 29 年 7 月、都内公立小学校 5 校、第 5・第 6 学年の児童 745 名、教師 112 名である。

### (2) 調査結果の主な内容

教師は児童の実態に合わせた指導を行っていることが分かった。「自己の生き方についての考えを深めている」と意識している児童のうち、①問題意識をもつ、②他者と話し合いをする、③自己を見つめる、の 3 点について肯定的な回答をしている割合は 6 割を超えた。しかし、「自己の生き方についての考えを深めている」と意識している児童のうち、「発表している」と肯定的な回答をした児童の割合は 47%であった。

### (3) 考察

自己の生き方についての考えを深めさせるためには、道徳的価値に対して、問題意識をもたせ、他者と多面的・多角的に考える話し合い活動を通し、自己を見つめさせる学習活動を設定する必要がある。その学習過程において、話し合い活動を効果的に行うために、①多面的・多角的に考えさせるための発問、②児童の考えを表出させるための手だて、の 2 点について工夫をする必要があることが分かった。また、今後の指導に生かしていくためには、教師が児童の変容を見取るための観察する視点をもつことが大切であると考えた。

## 3 開発研究

### (1) 問題解決的な学習に着目した学習過程

問題解決的な学習に着目し、表 1 のとおりに学習過程を設定した。児童の体験を生かした学習過程にするために、この学習過程を軸とし、ねらいとする道徳的価値に対して、児童の体験が豊富と思われる場合は学習過程 A「自己の体験を基に、I 気付かせる—II 考えさせる—III 意欲を高めさせる—IV 振り返らせる」とし、ねらいとする道徳的価値に対して、児童の体験が乏しいと思われる場合は学習過程 B「自己の体験を基に、I 確かめる—II 考えさせる—III 意欲を高めさせる—IV 振り返らせる」とした。なお、児童の体験を把握する視点として、児童を取り巻く環境、地域・学校の特色、日頃の学校生活の様子、児童が回答したアンケート等がある。これらを基に実態を把握し、児童の体験を生かした学習過程が選択できるようにした。

表 1 問題解決的な学習に着目した学習過程

I 導入	児童に自分の体験を振り返らせ、問題意識をもたせる。
II 展開の前半	読み物教材の登場人物を通して自分の考えを表出させ、話し合わせることで、自分なりの考えをもたせる。
III 展開の後半	これからの自分の生き方について考えさせる。
IV 終末	学習の振り返りをさせる。

### (2) 効果的な話し合い活動

#### ア 発問の工夫

調査研究の結果から、自己の生き方についての考えを深めさせるためには、①問題意識をもたせ多面的・多角的に考えさせること、②道徳的価値に対して今までの自分について振り返らせること、③道徳的価値についてこれからの自

表 2 学習過程 A・Bにおける発問の工夫

	I 導入	III 展開の後半
学習過程 A	I 気付かせる 道徳的価値に対して日頃の思いや考えを想起させ、児童の体験を生かして、話し合い活動ができるような発問をする。	III 意欲を高めさせる 導入時の「自分の考えや気持ちに対してどう思うか。」という視点で発問をし、今までの自分を客観的に捉えさせ、これからの自分の生き方について見つめさせる。
	I 確かめる 道徳的価値について児童が理解していることを全体で確かめた後、児童が一人では答えが見付けにくいと感じるような発問をする。	III 意欲を高めさせる 展開の前半までに学んだことを基に、「自分は何を大切にしていきたいか。」に焦点を当てた発問をし、自分の生き方について見つめさせる。

分の生き方について考えさせること、の3点を踏まえ発問を工夫する必要があると考えた。そこで、学習過程A・BのⅠ導入とⅢ展開の後半で表2に示すとおり発問の工夫をした。

### イ 児童の考えを表出させるための手だて

児童が多面的・多角的に考えるためには、児童が自分の考えを表出し、話し合う活動が必要である。そこで、①考えをもてること、②自分の考えを伝えたいこと、③表現するための道具があること、の3点について手だてを講じる必要があると考え、学級全体的話し合い活動では、道徳的価値に対して二つの視点で考えたことを表現できる「心情円」の活用、少人数の話し合い活動では、個の考えを共有することができる「付箋」の活用を取り入れた。

## (3) 「自己の生き方についての考えを深める」児童の姿を観察する方法

### ア 本研究における観察の視点について

道徳的価値に対して、児童の学習状況を観察する。他者との比較ではなく、児童一人一人のもつよい点や可能性などの多様な側面、進歩の様子などを把握し、どれだけ成長したかという視点を大切にする。そのために、①一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか、②道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか、の2点を視点にもち観察をしていく(表3)。

### イ 本研究における観察の方法

- ・ ワークシートに記述された内容を「児童の変容を観察する視点の例(表3)」に照らして見取る。
- ・ ねらいとする道徳的価値に対する導入時の考えと展開の後半時の考えの変容を見取る。

## 4 検証授業

### (1) 授業の概要

平成29年10月、都内公立小学校の第5学年の児童を対象に検証授業を実施した。授業の概要は表4に示すとおりである。

表4 検証授業の概要

	教材名	導入の発問	中心発問	発表方法	展開の後半の発問	自己の生き方についての考えを深めた児童の姿 (ワークシートの記述より)
学習過程A	ロレンソの友達	自分にとって友達はどんな存在ですか。	互いにずっと友達でいるために大切なことはどんなことだと思いますか。	付箋	互いに「ずっと友達でいたい」と思えるために、自分はどんな人でいたいですか。	・3人の行動から、信頼し合うことが大切だと分かった。 ・友達を信頼し、自分も信頼される人になりたい。相手の立場になって、助けられる人になりたい。
学習過程B	手品師	「誠実」についてどのようなことを知っていますか。	誠実に生きるとはどういうことでしょうか。	心情円	今日の学習で、自分が一番大切にしたいと思ったことは何ですか。	・手品師の生き方を通し、誠実な生き方の大切さが分かった。 ・誠実に明るい心で生活することを大切にしたい。

### (2) 「児童の変容を観察する視点の例」を活用した児童の発言と記述内容の分析

表5に示すとおり、導入時の道徳的価値に対する児童の理解は、発言の内容が一面的であり、深く考えたものとなっていない。しかし、検証授業において、問題を意識させ、多面的・多角的に話し合わせ、自分なりの答えを見いださせたことにより、展開の後半の記述では、児童が道徳的価値を自分自身との関わりの中で考えることができたと分かる。このような児童の変容から、道徳的価値の理解の深まりを捉えることができた。また、記述では、自分の体験を

表3 児童の変容を観察する視点の例

①一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させていると思われる児童の姿		
主に道徳的価値の見方に関すること	見方を変える	道徳的価値について様々な側面から見るようにしていた。
	見方を広げる	道徳的価値に対して、見方を広げ、他の価値との関わりについて考えようとしていた。
主に他者との関わりに関すること	受け入れる	自分とは違う意見や立場を理解しようとしていた。
②道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めていると思われる児童の姿		
主に教材に関すること	重ねる	読み物教材の登場人物と自分を重ねたり、置き換えて考えたりしていた。
主に道徳的価値の理解に関すること	分かる	分からなかった道徳的価値の意味が分かった。道徳的価値のよさや困難さが分かった。
	深まる	知的に分かっていたことが心情的に感得できた。または、道徳的価値に心打たれ、感銘した。漠然としていた道徳的価値がはっきりした。
主に自分自身の理解に関すること	自覚する	自分の行為と道徳的価値との関わりを自覚した。
	自信をもつ	道徳的価値において、迷っていたことがはっきりし自信をもった。道徳的価値に関わる自分のよさが分かった。
	かわる	今までもっていた道徳的価値に対する考え方が変わった。
	意欲をもつ	道徳的価値に基づき、実践しようとする意欲をもった。

基に「～する。」、「～したい。」という思いや願いが表れていることから、児童は道徳的価値に対して、これからの自己の生き方についての考えを深めることができたと思えた。

表5 観察の視点に基づいた、検証授業における主な児童の姿

	道徳的価値	導入時の道徳的価値に対する発言の内容	展開の後半の記述	「児童の変容を観察する視点の例」に基づいて、見取った視点
学習過程A	勤労、社会奉仕	家は、おこづかいがもらえるから嬉しい。学校は、疲れる。面倒くさい。	学校の係や当番、委員会、日直等を頑張る。マシヨンのゴミ拾い、イベントも参加する。働いていいことがある。	②-意欲をもつ
	友情、信頼	一緒にいると楽しい。遊べる。	友達のことを信用する、信用される。	①-見方を変える ②-意欲をもつ
学習過程B	正直、誠実	素直。真面目。うそを言わない。	誠実に明るく生きて生活することを大切にしたい。	①-見方を変える ②-意欲をもつ
	公正、公平 社会正義	言葉は知っているが、意味については分からない児童が多かった。	自分が他の人の立場を考えて、その人のつもりになったように考えて、勇気を持ち、発言する。	①-見方を広げる ②-深まる ②-意欲をもつ
	よりよく生きる喜び	心臓が動く。息をする。食べる。飲む。歩く。話す。笑う。	このクラスでいるのもあと半年だから、友達とたくさん遊んで楽しく過ごす。	②-自覚する ②-意欲をもつ

## 5 事後調査

検証授業後(10月)に実施校にて行った「道徳の時間の学習等に関する意識調査」(図1)では、肯定的な回答をした児童の割合は、検証授業前(7月)の結果と比べ、全ての項目で増加した。特に、「問1 問題意識をもつ」が18.3%、「問2 多面的・多角的に考える」が21.5%と大幅に増加している。「問3 発表する」は9.4%、「問4 自己を見つめる」は6.5%、「問5 自己の生き方についての考えを深める」は、8.2%の増加であった。

この結果から、学習過程や発問を工夫し、考えを表出させる手だてを講じたことにより、児童は自己の体験を基に、問題を意識し、話し合い活動を通して、多面的・多角的に考え、問題に対して自分なりの答えを見いだすことができたと思える。

### 第4 研究の成果

児童が展開の後半に書いたワークシートにおける記述や上記の事後調査の「問1」、「問2」の結果から、指導方法の工夫は、児童が自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深めるために効果があったと思える。しかし、「問3」、「問4」、「問5」は、事前調査と比べ、事後に増加した肯定的な回答の割合が少ない。児童の考えを表出させるための手だてや児童が自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深めるために発問を工夫するなど、指導方法についてさらに工夫をする必要があると思える。

### 第5 今後の課題

- ・ 他の教材、内容項目の授業においても、実践を重ね、研究成果の妥当性を高める。
- ・ 道徳科の年間指導計画において、問題解決的な学習に着目した学習活動をどの時期に設定すると、児童が自己の生き方についての考えを深めることができるかを検討する。
- ・ 「児童の変容を観察する視点の例」の汎用性について、実践を重ね、検証する。

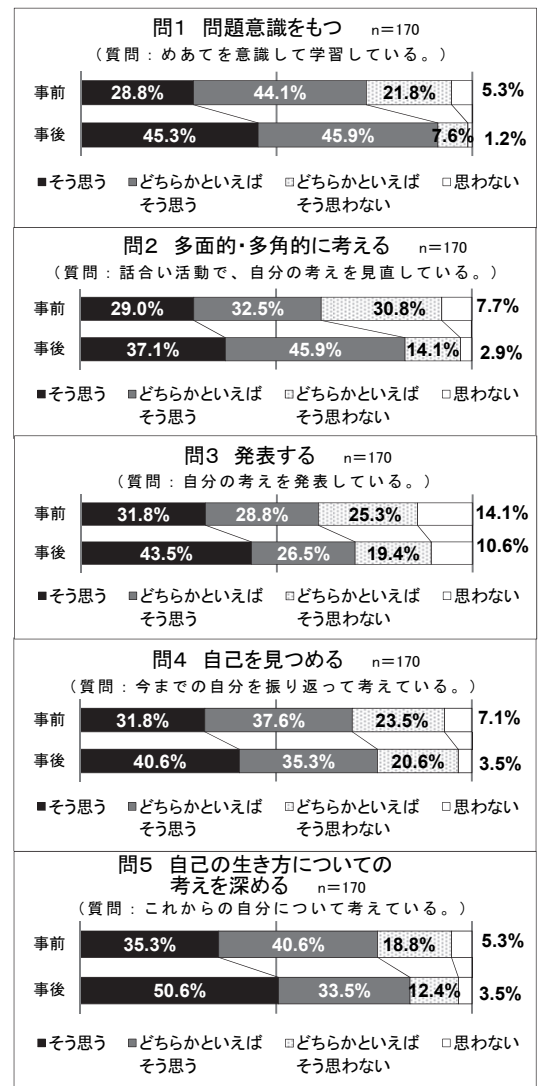


図1 事前、事後における「道徳の時間の学習等に関する意識調査」の各問の比較